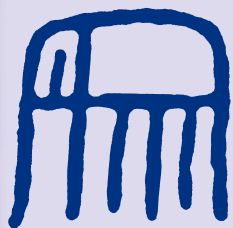


2020.9 NO.71

同窓會報



〒610-1197 京都市西京区大枝杵掛町 13-6
京都市立芸術大学美術学部同窓会 象の会
発行人：同窓会会長 上村 淳之
TEL/FAX 075-334-2218
携帯 /090-7353-6999
http://www.kyogei-ob.jp
E-mail info@kyogei-ob.jp



「同窓生名簿2020」の刊行と頒布開始

5年に1回発行しています「同窓生名簿」を8月17日に刊行しました。7月1日の創立記念日に発行予定でしたが、コロナ禍の影響で作業が1ヶ月余遅れました。本年は本学創立140周年を迎える節目の年で、その記念誌の意味も込めています。既に予約購入(@3,500円)いただき代金を納入されている方には順次送付しています。これから購

入いただく方は、@4,000円(送料込)を同窓会まで送金いただければ直ぐに送付します。＜会費納入の振替用紙を利用＞

ただし、同窓生1人に1冊とさせていただきます、同窓会費(年会費1,000円または終身会費)の納付が必要です。会費未納の場合は、会費と合わせて名簿代金を納入ください。

2020年度総会中止に伴う議案の書面議決(お願い)

今年は、5年に1度の同窓会象の会「総会」開催の年で、7月5日(日)開催でご案内し、参加者を募集していました。しかし新型コロナウイルス感染防止の観点から中止することになり残念に思っています。

総会に提案して議決いただく予定だった議案につきましては、本会報の最後に掲載しています議案書を読んでいただき、各議案の認否を同封ハガキに記載して返信ください。

返信数の過半数以上で議案の認否を決し、その結果は、同窓会象の会ホームページ及び次回の会報象でお知らせします。

【9月30日(水)までに各議案(本会報10頁～12頁)の認否を連絡ください】

総会で提案する予定だった議案は6件です。この議案の認否を返信ハガキに記載して9月30日(水)までに返送ください。返信のハガキ数を分母に認否の数を分子とし、その過半数以上の承認で可決されます。議案についてのご質問は同窓会事務所へご連絡ください。

「アートオークション2021」再来年(2022年)3月に延期

同窓会象の会は、2021年1月に京都市立芸術大学が崇仁地域へ移転のする支援(不足する設備・備品等)を目的とした「同窓会アートオークション」の開催を計画していました。

しかし、2020年春からの新型コロナウイルスの蔓延という思わぬ事態で計画の見直しを余儀なくされ、アートオークション実行委員会(委員長：望月重延)で協議し、準備してきた実施

計画案は踏襲しつつ、開催の時期を2022年3月まで延期することを決定しました。

同窓生の皆様にはオークションへの出品ご協力を願っていましたが、この度の事情をご賢察の上、引き続きのご支援をよろしくお願い致します。

Head line

「同窓生名簿2020」の刊行と頒布開始	1
2020年度総会中止に伴う議案の書面議決(お願い)	1
「アートオークション2021」再来年(2022年)3月に延期	1
京都芸大名称使用差止裁判の中間報告	2
「京都芸術大学の名称使用を差止める活動」を支援するカンパのお願い	2
令和2年度後期芸術資料館収蔵品展	2
研究室だより 陶磁器研究室	3
新型コロナウイルス感染症と本学の対応	4

「芸祭2020」をオンラインで開催	5
同窓生だより《部活／記憶の彼方》 軟式庭球部	6
Relay Talk象の会・いろあわせ ①	7
2019年度「京都市立芸術大学作品展」同窓会賞受賞作品	8
事務局だより	9
編集後記	9
2020年期総会提案の議案書	10

京都芸大名称使用差止裁判の中間報告(反対署名22,013名<7月末>)

昨年9月2日、本学が大阪地裁へ提訴した京都芸術大学の名称使用差止請求訴訟ですが、旧京都造形芸術大学側が本年4月1日に「京都芸術大学」に改称したと言う一方的な発表に、美術・音楽の在校生や同窓生の怒りはさらに高まりました。

3月早々には両同窓会で「京都芸術大学の名称を守る会」を組織し、多くの方々に向けた反対署名活動を立ち上げました。その間、当該訴訟もコロナ禍の影響で一時ストップしましたが6月30日から再開されました。署名活動もコロナ下で人との接触が制限される中、署名依頼が困難との報告も受けましたが、7月

末時点で22,013人から署名が寄せられました。(詳細は同窓会ホームページに掲載)今も、毎日署名(書面、web)が届きます。判決が確定するまでこの署名活動を続ける予定で、署名用紙もまだまだ用意できていますので事務局へ一報下さればいくらでも送ります。一層のご協力とご支援をお願いします。

なお、当該訴訟は、8月27日(木)に大阪地裁の判決が出る予定です。私たちは、本学の差止め請求を認める判決がなされても、旧京都造形芸術大学が控訴する可能性もあるため、なお緊張感をもってこの訴訟の推移を注視して参ります。

『京都芸術大学の名称使用を差止める活動』を支援するカンパのお願い

名称使用差止請求訴訟は、この8月27日に1審判決が出される予定です。私たちは勝訴によって早く解決されることを強く望んでいます。制度上、1審判決で確定しない可能性もあり、そうなれば反対運動の継続や訴訟の長期化を視野に、大学とも協力して腰を据えた構えが必要となり、そのための経費も嵩んで参ります。

美術・音楽両同窓会は、これらの経費を一義的に会の予算で賄うつもりですが、併せて同窓生各位のカンパで補強できれば心強いと考えています。同窓生の皆様には是非とも本カンパにご協力のほどよろしくお願い申し上げます。カンパの管理は、両同窓会で組織した「京都芸術大学の名称を守る会」が事業や会計処理を一元管理いたします。事業や会計の報告は、各同窓会ホームページでその都度お知らせいたします。

カンパ協力額は基本自由としますが、目安として一人3千円、

5千円、1万円を指標とお考え下されば幸いです。(音楽の同窓会真声会と共通の基準)

【カンパ振込先口座】

ゆうちょ銀行 口座番号 00970-4-197391

口座名義 京都市立芸術大学同窓会連絡協議会

他銀行から送金の場合:

〇九九店(店名)099(店番)当座 0197391(口座番号)

- ・カンパ振込手数料は恐縮ですが振込者でご負担お願いします。(ただし、同封の会費納入振込用紙を利用してカンパいただければ手数料は必要ありません)
- ・カンパ募集期間は、2020年度内(令和3年3月30日)までとします。
- ・カンパされた方の氏名、住所、学部、専攻、卒年を記載ください。(匿名希望の方は、その旨記載ください)

令和2年度後期 芸術資料館収蔵品展 (2020.9 ~ 2020.11)

開校140年の本学の教育史において、当館の収蔵品は蓄えられてきました。今年は、第1期及び第2期は新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止となりました。第3期は本学開校140周年を記念し、本学の前身の一つである京都市立絵画専門学校の卒業作品や活動を振り返る展示を行いました。9月からは以下の展示を開催しますので、皆様のお越しをお待ちしております。

第4期 「南宗憧憬 —京都芸大の中国絵画 田能村直入寄贈品を中心に— 9月15日(火)~10月18日(日)」

当館には、約30点の中国絵画が所蔵されています。初代摂理の田能村直入が、明治20年(1887)に寄贈した明清南宗画に始まり、その後も購入が行われました。清末の羅振玉が請来した書画も、明治44年(1911)に京都市立絵画専門学校で展覧され、模写が伝わっています。本展では中国絵画関連の収蔵品を総合的に展示し、作品やコレクションとしての意義に迫ります。

汪蔚 《溪山明微図》
清(1786年)田能村直入旧蔵



第5期 「近代の写生 ころろとかたち」 10月24日(土)~11月29日(日)」



三輪晃勢
《葡萄》1924年

近代の絵画教育の中で、大きな役割を果たしたのが写生の精神です。古く「生き写し」とも呼んだ写生は、真摯な描写により対象の生命感を表現しました。近代になると西洋美術から学んだ写実的効果を意識しながら、造形に自己の精神を反映させる方法のひとつとして捉え直されます。近代の写生の諸相を絵画を中心に紹介します。

陶磁器研究室

長谷川 直人
陶磁器研究室 教授

本年度はコロナウィルス対策のため、原則としてインターネットによる遠隔授業になっています。ようやく6月下旬、どうしても大学の施設を使わなければならない作業に限り厳しい制限付きで大学での作業が許されました。とりわけ陶磁器は窯で焼くことをはじめ、学内の施設を使ってしかできないことが多く、大変な状況ではありますが、みな、不便で慣れないシステムの中でなんとか授業を行なっております。そしてなんとギャラリー@KCUAで前期展も行いました。どんな環境の中でもなんとか自分の制作・表現を模索する逞しさをまなぶことを皆に期待するところです。



陶磁器基礎(窯詰)



陶磁器基礎

さて、陶磁器専攻では以前より「やきもの」という素材に根ざしつつも、様々な角度からその可能性を探り、これからの社会の変化に柔軟に対応して、新しい価値を提案できる人材の育成することを目指してきました。

そのためには確かな基礎技術と素材などに対する専門知識が必要です。陶磁による表現のための基礎となる技術と知識をしっかりと伝えていなくてはなりません



。 磁器ろくろ

陶磁器基礎での授業では確かなロクロ技術の習得を目指した授業を行い、加えて3回生前期も石膏型による成形と、磁器のロクロ成形の授業をしっかりと行なっています。また、加飾技法、上絵付けなどの指導を挟み、できるだけ幅広い技術の習得にも努めています。(確かな技術を指導いただける非常勤の先生に来てもらうこともあります。)

4回生は「創造」と「表現」への展開の期間です。「生活とやきもの」「造形とやきもの」「社会とやきもの」のコースに分かれ、それぞれみずからの課題に取り組めます。

毎年「アジア現代陶芸交流展」に参加し、日本・韓国・中国・台湾の美術大学で陶磁を学ぶ学生たちとの、交流を行なってきました。作品展示だけでなく、各国の陶芸事情などをテーマとした講演会、出品者による国際講評会なども行なわれてきました。今年は中止になりましたが、今後はオンラインでの新たな試みを企画する動きもあります。



炭山の登り窯

陶磁器専攻では以前から焼成に関しての知識や経験を深めるために美山町に登り窯を焚きに行っていました(隔年実施)、2017年度からは京都市産業技術研究所、京都府立陶工高等技術専門校との合同実習で、京焼炭山協同組合が所有する登り窯を、組合の先生がたのご指導により薪割りから窯詰め、焼成、窯出しまでの実技訓練を通して、京都の伝統的な焼成を学ばせてもらっています。



上絵付けの実習(永楽先生)



絵付け授業(高柳先生)

最後になりましたが、陶磁器専攻では、昨年に永楽善五郎先生と秋山陽先生が退任され、あらたに若杉聖子准教授、上田順平特任講師が着任しました。(あと、重松あゆみ、森野彰人、長谷川直人で、全5人の専任教員がおります。)

若杉先生は、鑄込み技法による制作とデザインの視点からの創作の指導、上田先生は、陶磁器を外側から捉え、歴史、文化、生活、生産の文脈を読み替え、陶磁の多面性に係る制作の研究指導というように、それぞれ得意分野を生かして陶磁器専攻に新風を吹き込んでくださってます。



若杉先生(石膏型)



上田先生

新型コロナウイルス感染症と本学の対応

令和2年の年明けから、徐々に感染が拡大した新型コロナウイルス。本学も、令和2年2月に理事長を本部長とする「危機管理本部会議」を、また、危機発生時に迅速かつ的確に対策を講じるため「緊急危機対策本部」も設置し、対応してまいりました。

令和2年度は、入学式は中止し、授業開始日も4月13日から5月11日に約1カ月延期。4月7日から6月18日までは学生の登校を禁止としたため、学生は大学施設を使用することもできませんでした。

5月11日から全ての授業を遠隔授業で開始しましたが、本学ではオンラインを含む遠隔授業の実施は初めてであり、学生の通信

や制作環境が様々あるなか、先生方には創意工夫をもって対応いただきました。

今回はその中から、版画専攻の田中栄子教授と、ビジュアル・デザイン専攻の舟越一郎教授に、遠隔授業の内容や実施に至る御苦労を、御紹介いただきます。

新型コロナウイルス感染症の拡大は予断を許さない状況ですが、本学は引き続き、学生と教職員の健康と安全と第一に考え、対応してまいります。

事務局総務広報課長 淵田聡子

オンライン授業 —版画専攻の取り組み—

田中栄子 版画研究室 教授

卒業式を終えた3月末頃までは、実技授業が遠隔になるとは思っていませんでした。その後全国的にコロナウイルス感染者が増加し、日本全体が自粛生活の中で、実技授業も5月11日からオンラインで行うことが全学的に決定しました。

戸惑いながら準備をすすめていく中で、一番心配だったのが2年生の版画基礎の授業でした。2年生後期からの専攻選択の前段階である基礎授業では、版画の基本4版種である木版画、銅版画、リトグラフ、シルクスクリーンと写真を加えた基礎的な技法を学びます。特に2年生の前期授業で行われるリトグラフと銅版画技法では、版を制作した後、インクをつけて紙に転写する際にプレス機による強い圧力が必要となります。専任教員3人で話し合いを重ねた結果、プレス機なしでは基礎授業は成立しないと考えて、小型エッチングプレス機を履修している学生数購入する事を決断しました。1人一台のプレス機を履修生の各家庭に送付し、それを使用して今回のオンライン授業を行う事にしました。

さっそく各家庭で授業が行えるようにする為の「版画基礎キット」の制作にとりかかりました。キットの中身は課題で必要になる銅版やアルミ版や版画用紙を小型プレス機で使える大きさにカットした画材、版制作に必要なインクやハンドローラーなどの物品、またインクなどを掃除する溶剤やウエスといった、普段工房では当たり前で常備されている物品も全て小分けにしました。特に多色刷りで使用するインクなどは共同で使用している大きなインク缶から人数分小分けにするなど、まるで学生分のお弁当箱におかずを詰めるようにキットを制作して、ダンボール箱に詰めてゆきました。届いた箱を開けた時に、ちょっと楽しくなるようにとお菓子も同封したりと、準備する私たちも予想外の出来事に混乱しながらも、どこかそれを楽しもうとしていたように思います。

また、プレス機や物品の他にリトグラフ用の重たい石版も表面を研磨して送りました。墓石が家に届いたかとびっくりする学生もいたようです。

授業では先生と学生が同じ環境をそれぞれの家で再現できるように授業準備をすすめていきました。実際のオンライン授業では、手元をスマホで撮影しながらパソコンに繋いで画面共有をして、料理番組のように、その日にする工程を遠隔で一通り実演して配信しました。

それだけだと取りこぼしも多いので、技法工程の動画を撮影してYouTubeに限定公開し、学生がそれぞれの家で再度動画を見な

①スマホカメラで作業する手元を撮影したライブ映像をパソコンで画面共有



②学生に送付した小型エッチングプレス機

③版画基礎キット(描画材やアラビアゴム、製版や刷り用インクを小分けにした物品)



④学生が描画した後に回収した石版

がら制作できるようにしました。

教える側も、受ける側も遠隔でのもどかしいやりとりの中で、それぞれに疑問点や失敗を全員で情報共有しながら授業をすすめていき、各家庭で刷り上がった作品を返送してもらい、最終日にはその作品を見ながらオンラインでの合評会をしました。

何より驚いたのは作品の完成度の高さです。さすが京都芸大生です。教えた事はもちろんのこと、それ以上に新しい試みを自ら取り入れたり、自宅にプレス機があることで夜な夜な技法動画を見ながら制作して、失敗を繰り返して技法を自分のものにしていくと

いった学生の反応は想像を超えるものがありました。

遠隔での学生とのやり取りでは、大学が採用しているGoogle classroomだけではなく、学生に浸透しているLINEで情報を共有したり、個人チュートリアルを定期的に行いました。授業や作品制作だけでなく、自分の趣味やコロナ禍での生活や友人の事、遠隔であるからこそ、普段より相互に気遣い、対話を大切に授業を進

める事が出来たように感じます。また、今までとは全く違う授業形態での新しい試みばかりで、学生も教員も苦労が多かったのですが、基礎的な技法を学ぶことが出来ただけではなく、何より作品制作をどのように普段の生活の中で継続していくのかといった、卒業後に直面する問題に向き合えたことは学生にとって貴重な経験になったのではと思います。

コロナ禍のオンライン授業

舟越一郎 ビジュアルデザイン研究室 教授

志村けんが亡くなった。——それはコロナ禍に対する世間の認識を一変させる出来事だった。それまでは、この流感を真面目に語りながらも、どこか対岸の火事のような他人事として捉えていた気がしている。ちょうど3月の末、新学期を迎えようとしていた矢先のことであった。そしてまもなく緊急事態宣言へと世の中は変わっていった。

以前から働き方改革の趣旨でネット会議の検討をしていた矢先、いっしょに検討していた上先生や金田先生らと、授業のオンライン化の可能性を探りはじめることからはじまった。

春から大学では、G Suiteを利用したポータルサイトを運用していたこともあり、その中のClassroomの機能がちょうど良い候補となった。生徒役と先生役にわかれて実験をはじめ、教務委員長やネットに詳しくそうな先生、教務学生課の皆さまにも声をかけて、有志の間で理解を深めていった。その後、問題点の洗い出しや情報共有、教員向けQ&Aサイトの立ち上げなど、教務委員長の永守先生、音楽学部津崎先生はじめ、多くの教職員のご尽力で、オンライン授業が実現できたことには感謝しかない。

専攻での検討もはじめたが、実家に戻ったままの学生などの実態調査から、大学発行メールアドレスの取得利用状況(利用していなかった学生には、なんとか連絡を取り再発行など対応が大変だった)や、ネット環境や所有デバイスの調査、教材配布に備えた配送先住所の確認など、アンケートフォームやメールでの確認作業が続いた。

当初の始業日から1週間遅れた4月20日には学生達をオンライン会議に集めて、今後予定している課題の構想を練っておくことや、スケッチブックを配布して自分たちのルーツを見つめて描きためる課題など、自粛中に自宅で出来る課題や過ごし方について説明する事をはじめていた。

一番気にしていたのが、学生達の学びの共有である。通常の実技授業では、学生達が同じ空間で制作を進める事で、お互いに良い刺激を与えあうことで制作に深みや飛躍が生まれることが、教育効果としても大切な要素として従来から考えていたので、オンラインでもできるだけそのような効果が生まれるように考えたが、Classroomでの課題提出には、学生と先生との1対1の共有しか出来ず、結局別のサーバーを用意して、アイデアスケッチやプロセスの写真をアップさせて、お互いの過程を見せ合えるように改良するなど、独自の設定も行ったりした。これによりTV会議の画質の悪さを解消することができ、細かな指導にも役に立った。

だが、写真だけでは、質感や色彩の微妙な関係などがわからず、実物を大学へ送ってもらって素晴らしさに気づいたり、何気ない会話から生まれる発見や、空気感の共有など、オンラインで抜け落ちてしまう部分へのもどかしさも感じていた。実際には、顔色があまりわからず対面なら気づくところが気づけなと感じたり、どこかオンラインで抜け落ちてしまう、コミュニケーションの隙間をどう埋めるのか、そんな隙間にヒントがあったりしてないか、よく考えるようになった。

以前のように、研究室に学生達がふらっと相談に来れる雰囲気もなんとか再現できないかと、TV会議室を無駄に開けておくオープンアワーをやってみたり、こちらから一方通行にならないように、意識的に発言させたり、いろいろ試みてみた。

まだまだ以前のような指導が行えない状況が続くであろうが、ネット環境を賢く利用する社会の進歩が加速しているのも実感している。そんな中で、取り残していきそうな隙間に、今、気づかせてくれているのかもしれないと思いながら、この前期のオンライン授業を終えた。

「芸祭2020」をオンラインで開催

毎年盛大に盛り上がり、学生生活には欠かせない最大のイベントである京都市立芸術大学祭、通称「芸祭」今年度の開催は、新型コロナウイルスの影響で一度中止となりました。しかし、私たち芸大生の知恵とアイデアがあれば、コロナウイルス感染予防対策に準じた芸祭に代わるイベントを企画できるのではないかと考えました。様々な議論の結果、webサイトを制作し、そこで、芸祭に似た大きなイベントを行うことを決定しました。魅力的な展示作品や演奏、個性豊かな学生を日本国内だけでなく、世界に発信することができ

ます。

従来の芸祭でもあった、有志展やテーマ展、演奏会はもちろん、有志のダンスや演奏など学生のパフォーマンスの動画配信、過去の芸祭ステージ企画の動画掲載などオンラインだからこそ実現できる多彩な企画をご用意しております。

サイトのURLは出来上がり次第、京芸HPにて掲載予定です。

芸祭テーマ「MONSTER!!!」

オンライン芸祭のテーマは「MONSTER!!!」です。

これは今年開催するはずだった芸祭のテーマと同じものです。

芸祭は学生にとって、一年のイベントの中でも特に多くの人の目に触れる機会でもあります。普段私たちの学生生活を知らない方にとっても心から盛り上げられる、同時に恐ろしさを感じる「芸術」の技と技術を感じ取って欲しいという想いからこのテーマに決定しました。

京芸生自身が怪物・化け物となり、外界をも巻き込んでいくフェスティバル。賑やかで騒々しくて、誰しもが化け物になるくらい狂った芸祭「MONSTER!!!」を是非お楽しみください。



軟式庭球部

六村眞規子

(1991年大学院工芸専攻(染織)修了)



1988年四芸祭京都大会カップに扮して金美を迎える



沓掛校舎のテニスコート

<軟式テニス部の歴史>

「軟式テニス部は、いつ頃からあったのだろう？」率直な疑問から、京都市立芸術大学「百年史」を頼りに歴史をたどってみると、明治43年(1910年)頃のテニス部主将として、榊原紫峰さんの名前があり、すでに明治時代にはテニス部が存在していたことがわかります。

続いて大正時代にも「大正7年11月 美工軟式庭球部、毎日新聞社主催の全国大会に優勝」「大正10年7月 美工庭球部、第一回京津中等学校庭球試合に優勝」「大正14～15年頃 テニス部東京遠征」とあるなど、大先輩達は優秀な成績を残されています。

大正15年(1926年)には東山今熊野に校舎が移転し、昭和に入ってから、盛んに活動されていましたが、「昭和17年“そんな毛唐のやるようなもの止めてしまえ”という学校当局の一喝で廃部になってしまった」とあることから一度はなくなり、昭和25年(1950年)、京都市立美術大学創立の年に、改めて発足したようです。

その後昭和44年(1969年)の京都市立芸術大学開学から、昭和55年(1980年)の西京区沓掛校舎への移転を経て30年以上にわたって、三美祭(四芸祭)での交流試合を中心に、夏合宿、文化祭(芸大祭)の模擬店や仮装行列への参加等、活動が続けて来ましたが、平成12年(2000年)に最後の部員が卒業されて、軟式テニス部の歴史は幕を閉じました。

<テニスコート>

『百年史』には「昭和17年 美工庭球部 当時の練習場は校外の草原の中にある五条郵便局のコートであった」とあります。昭和37年以降の先輩方にお話をうかがうと、当時の練習場所は、今熊野の南と北の校舎の間にある丸池とグランドの間のスペース。ポールを立て、ネットを張り、線を引いてコートにし、その一面のコートを日替わりでバレー部(後に硬式テニスも)と共用していたそうです。「普段は校舎から校舎へと人が往来するスペースに、コートを作って練習していた」「陸上部やラグビー部が走り込んで来る事もあった」「授業が終わるとすぐに球を打つ音が響いて、みんな校舎の窓から顔を出して覗いていた」と当時の様子を語って下さいました。

沓掛へ移転後は、校舎から少し離れた場所にある二面のテニスコートを硬式と日替わりで使用しました。コートへ向かう坂の途中、パコーン、パコーンとゴムボールが跳ねる音が聞こえ出すと、小走りになったことを思い出します。

<練習>

今熊野当時の練習についてうかがうと「同期のデザイン専攻の学生を誘ったところ、17、8名が次々と入部し、未経験者もラケットを購入して乱打練習に励んだ。専攻によって授業が終わる時間が異なるので、練習はみんなが集まれる昼休みに行き、つつい熱が入っ

て、授業時間に食い込む事もあった。上野リチ先生から『手が震えて、線が引けない(早めに席に戻りなさい)』とたしなめられた事も懐かしい」と。また「時には放課後6時ごろから岡崎のコートを借りて『夜練』を行うこともあった」そうで、大変練習熱心なクラブであったことがうかがえます。

昭和44年(1969年)美大と音大が統合され、京都市立芸術大学となります。美術学部、音楽学部は別々の地にありましたが、すでにこの頃から美術・音楽、二つの軟式テニス部は、合同で練習したり、合宿を行ったりと交流が盛んで、昭和55年(1980年)沓掛に移転した後の軟式テニス部には、音楽学部の学生の姿も多く見られました。

<三美祭・四芸祭>

昭和30年代からは京都、金沢、東京の三美大体育文化交歓祭「三美祭」(後に愛知を加え「四芸祭」)が試合の中心となり、優勝を目指し挑みました。「東京芸大との決勝戦。ジュース、ジュースと続いた大接戦の末に優勝。その試合の一球一球を、今でも鮮明に記憶している」との先輩の言葉に、驚きと、テニスに傾ける情熱を感じ、胸が熱くなりました。先輩方にお尋ねすると、「金美とは仲が良く、東京芸大と金美の試合では金美を応援していた」「京都大会でお酒を接待。ヘロヘロにさせたつもりが、翌日、やはり東京は強かった～」「金沢大会の歓迎ゲート、たくさん瓶が吊られていた」「東京へは皆で夜行列車に乗って行った」と。また「三美祭の後にはラケットを預け、リュックサックを担いで山登りに向かった」など、仲間との青春の思い出をたくさん語って下さいました。



1966年三美祭東京大会三大学集合写真



夏合宿



長浜のお寺の境内で朝のラジオ体操

<夏の合宿>

昭和40年(1965年)の夏は、滋賀県長浜市の大通寺の本堂に蚊帳を張って寝泊まりし、朝は長浜の町をランニング。市民コートで練習をされたそうです。「当番を決めて三食を自炊したこともよく覚えている」と参加された先輩が懐かしそうに語って下さいました。合宿地は潮岬や新宮(龍野市)、白馬や白浜、菅平などその年々で変わりますが、信州方面が多く、金美のメンバーが参加した年もありました。沓掛への移転前後の頃には、50人乗りのバスと自家用車に分乗して行くほど大人数だったそうです。

<文化祭(芸大祭)>

沓掛へ移る前のある時期から、芸大祭の模擬店や山車、仮装行列への参加が始まりました。「イカ焼きのうまい店!と人気があった『軟亭』『大枝の名物富有柿を使った餃子』『亀のマークの器を作っ

た、甘党のお店『タートル』『ケーキとミルク雑炊が自慢の『憩家』『中華のお店『天下三品』等、それぞれの時代でアイデアを出してはメニューや店作りにも凝りました。

<終わりに>

「授業が終わると1,2時間テニスをして、また制作へ戻る日々。色々な専攻の先輩がおられ、作品作りにも前向きでした。部員である事

を誇りに思っていました。幸せな時間でした。」とはひとりの先輩からうかがった言葉ですが、OBの思いは同じではないでしょうか。

今回「当時の軟式テニス部の様子は?」と、突然掛けた一本の電話に、先輩や同級生、後輩の方々が、それぞれの記憶をたどりながら思い出を語り、写真や資料を探し出して下さいました。皆さんのクラブへの愛情、テニスへの熱意をあらためて強く感じ、軟式テニス部のつながりを心から嬉しく思いました。

Relay Talk 11

象の会・いろあわせ

同窓生が同窓生を紹介し、リレーしていく近況報告のコーナーです。懐かしい人と出会う楽しみ、いつか自分に廻ってくるかも知れないドキドキ感のある連載です。

むとう もも
武藤 桃

2017年(平29)構想設計専攻卒業
2019年(平31)絵画専攻(構想設計)修了

「つくり話」

この連載の「いつか自分に廻ってくるかも知れないドキドキ感のある連載です」という紹介文。廻ってくるわけなろう、と思っていたら廻ってきたのでドキドキしている。

わたしは大学院を修了後、地元で教職に就いた。芸大生の一般常識程度だった美術に関する知識は働くうちに幾倍と増えた。在学時、勢力的に美術をやろうともがいていたが、大学を出て、憑き物が落ちたように美術に対して素直になり、作品をつくるのも美術館へ行くのも今の方が楽しい。

わたしが作品としてつくっているのは「つくり話」で、この間、以前所属していた三毛猫座が奈良の吉野で過去作を上演してくれた。自分の作品でありながら遠方で自分の知らない作品となったことにおもしろさを感じた。この作品を直接みたことはまだない。

コロナ禍において、直接触れられないことが当たり前になりつつある今、自分以外のものとのつながりは大事だと強く思うので、つくり話を書き続けていきたい。もちろん、この文章はつくり話ではない。



奈良・町家の芸術祭 はならあと2019 あらうんど
●吉野町上市 「ことばの組曲 1.夜」 写真：山本茂信



次号に紹介される方は、
てらかわ あかね
寺川 茜さん
2017年(平29)染織専攻卒業です。

きだ こうよう つぎお
樹田 紅陽(次男)

1971年(昭46)西洋画科卒業 ラグビー部

「卒業して半世紀」

卒業して半世紀になる。先生方も職員の方も含めて、なんと多くの人々が美大という場で、その境涯を築いてこられたのだらうかと思う。

私は卒業後、家業の刺繍工芸の道に入り、早々に得難き二人の専門の師に恵まれました。どの道も同じでしょうが、幅広く奥深いものです。師の高きまで一気に引き上げて頂いたという想いがあります。

四十歳になって江戸後期の刺繍幕の復原制作の機会を得ます。これまでの学びの応用であり、又原作を観ての新たな学びの実証です。平面作品、服飾作品の制作に加えて復元的研究に踏み入ることになりました。

一昨年は、奈良博の「糸のみほとけ展」の技法紹介の展示等に協力させて頂きました。

今も、その古代刺繍の面白さの余韻に浸っています。
「傑作は観る人を高め、観る人に因って傑作は高められる。」
日本文学の授業の講話が思い出されます。



大阪高島屋「みやびの風」展2019.May.01~07



次号に紹介される方は、
たなか かずよし
田中 一好さん
1971年(昭46)西洋画科学部卒(専攻科)です。

2019 年度

「京都市立芸術大学作品展」同窓会賞受賞作品 (13 点)

会期=2020年2月8日~11日 会場=京都市立芸術大学構内、元崇仁小学校



流転
松岡 勇樹
美術研究科 日本画専攻 2回生



個人写真
内野 小春
美術科 油画専攻 4回生



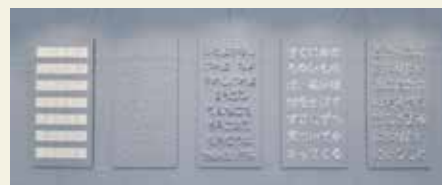
不正確的な距離計算
CHAN HAN YI
美術研究科 絵画専攻 構想設計 2回生



寂寥
中桐 聡美
美術研究科 絵画専攻 版画 2回生



どこかになってゆく
澤 みる天外
美術科 彫刻専攻 4回生



tyvolumegraphy
宇野 冴香
デザイン科 ビジュアル・デザイン専攻 4回生



日日
井上 亜美
デザイン科 プロダクト・デザイン専攻 4回生



手記
木田 陽子
工芸科 陶磁器専攻 4回生



ここちよいひのかたち
千本木 晴
工芸科 染織専攻 4回生



どこからきたの どこへゆくの
中井 由梨
デザイン科 環境デザイン専攻 4回生



overwrite
酒井 里紗
美術研究科 工芸専攻 漆工 2回生

<論文>

基底材が絵画表現に及ぼす影響

—16世紀の花鳥図を中心として—

日野 沙耶

美術研究科 保存修復専攻 2回生

<論文>

都路華香の画風展開についての考察

—明治30年代の作風と《李太白図》(明治34年)の制作意図について—

橘 凛

美術研究科 総合芸術学専攻 芸術学 2回生

事務局だより

- 今年、母校創立140周年を記念するめでたい年で明けましたが、春から新型コロナウイルスによるパンデミックが世界を席卷し、大学の閉鎖・リモート授業など、今までの価値観が揺らぐ変化にただオロオロと家に引きこもる日々が続きます。半年経過しても収束の見通しも立たない状況は不安で、京都芸大名称問題もこのうっとうしさに輪をかけます。
- 同窓会も今年はアートオークション、総会・懇親会、同窓生名簿2020発行など大きな事業を実施する計画でしたが、実施できたのは名簿の発行だけ。他はコロナ禍の影響で延期、中止と致しました。
- 2023年度の大学移転は、今のところ予定どおりと聞いており、今年度に入り旧崇仁小学校や敷地内の市営住宅取り壊しも始まり、工事は着々と進んでいます。想定外の事態が発生する昨今、期待と緊張を持って注視して行きたいものです。
- 2019年に予定していました同窓会報、同窓会誌象の合本について実施できませんでした。2020年度には実施したいと思っています。

次の場合は、事務局までご連絡ください

- **同窓会後援名義使用**
同窓会費を納入されている会員が主宰する作品展など(個展、グループ展)で同窓会の後援名義使用を希望される方。
- **展覧会の案内、情報をお寄せください**
同窓会へ送っていただいた展覧会の案内や情報は、同窓会ホームページや会報に掲載しています。
- **満80歳以上の会員で会費免除を希望される方はご連絡ください**
過去10年間、同窓会会費を連続して納入いただいていた満80歳以上の会員で希望される方は、年会費を免除できます。

- 今春、新たに5人の教員が就任されましたが、就任と同時に大学閉鎖となり、まだお互い顔を合わせていない状態が続いています。ついては、新任教員の詳しい紹介は次号72号に延します。

【5人の新任教員】

日本画専攻：准教授／正垣雅子、特任教授／翟建群
構想設計専攻：特任准教授／人長果月
プロダクト専攻：特任講師／谷川嘉浩
総合芸術学専攻：教授／飯田真人

- 本年4月の異動で大学事務局長が替わりました。
藤本信和さん(行財政局総務課へ)から後藤天平さん(文化市民局企画課より)へ
- 一昨年10月から事務局を手伝っていただいていた藤井雅子さん、この6月に出産され、当面は育児休暇に入ります。今後の勤務については未定です。

●氏名、住所、電話、FAXなどを変更された時

お忘れになると会報などの情報をお届けできなくなりますので、郵便、Fax、メール等の方法でご連絡ください。同窓会ホームページの住所変更フォームからも変更できます。

▶同窓会会費の納入をお願いします

会費の納入状況は同封の払込取扱票に印字されていますので、未納の方は納入くださいますようお願いいたします。

つきましては、年会費をお振込みの場合は可能な限りで結構ですので、数年分をまとめて納入していただくか、終身会費納入へ移行をお願いいたします。

編集後記

- 新型コロナウイルスの感染拡大により、マスク着用、アルコール除菌、手洗いがすっかり日常生活に定着し、経済的な打撃の他、展覧会や美術活動の中止、延期など、さまざまなところにおいて深刻な状況が続いています。中でも教育機関への影響も大きく、授業内容や教授法の変更など、経験のないリモート授業を導入し、その活用に四苦八苦、さまざまな工夫と試行錯誤を重ね実施されました。
- 本学でも特に一年生は入学式が中止され、リモート授業により大学に通学することもままならず、新たな友人と出会ったり課外活動を楽しむことなく、また、五芸祭や芸大祭も中止となり十分に大学生活を満喫することができない状態が続いています。
- いずれの教育機関も授業の遅れを取り戻すべく授業日数を延長するなどの対策を講じ、何とか夏期休暇に辿りついた状況です。その休暇も短縮され、いつもとは違う夏となりそうです。

- 同窓会の活動も同様、コロナの影響を受け、今夏は総会も中止され書面議決となり、また、創立140周年記念として計画しておりましたアートオークションの開催も実行委員会での検討の結果、2022年の春まで延期することとなりました。
- 今年の7月は初めて台風の発生しない月となったそうですが、異常気象による記録的な猛暑が海水温を上昇させ、今年も大型の台風の上陸に繋がるのではないかと心配です。「令和2年7月豪雨」と気象庁が命名した熊本県を中心に九州や中部地方など日本各地で発生した集中豪雨による被害は甚大でしたが、被害にあわれた同窓生がいらっしゃるのではないかと案じております。
- コロナ感染の第二波が再び起こり、いっこうに収束する様子も無く不安な日々ですが、同窓生の皆様、どうぞご自愛下さいませ。
今号の作成にご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

(同窓会報編集委員長：阿部 緑)

2020(令和2)年度 京都市立芸術大学美術学部同窓会 象の会 役員会・総会 議案書

はじめに

本議案書は、2020年7月5日(日)に開催予定であった総会への提案議案です。

総会は、新型コロナウイルス感染防止のため開催を中止しましたので、正会員、特別会員に議案書を送付し、提案議案の認否について議決権を行使していただきたくお願いいたします。議案の認否は、同封のハガキで9月30日(水)までに返信下さい。

議案は次の6件です。

議 題

第1号議案 2019(令和元)年度 事業報告

2019年は母校創立140周年記念を翌年に控え、その準備に万全を期す年でした。5年に一度の「総会」開催や「同窓生名簿2020」の発行、「アートオークション2021」の開催のため実行委員会を設け、事業成功に向けた検討を重ね実施計画案を作成しました。その他、経常的事業は予定通り実施いたしました。

1. 新入生に入学記念品贈呈 4月3日
「京都芸大130年の歩み 京の美 都の響」
 2. 役員会・懇親会の開催(からすま京都ホテル) 7月7日
 3. 真声会、大学、象の会で協議し、瓜生山学園が「京都芸術大学」の名称を使用する動きに反対する抗議文を両同窓会名で送達 7月20日
 4. 「会報 象」69号、70号の発行と編集委員会の開催 9月、2月
 5. 総務委員会の開催 4月24日、7月20日
 6. 同窓会展の開催(ギャラリー@KCUA) 11月9日～24日
- 漆工(塗装)専攻の今熊野時代・杵掛時代を振り返る -
 7. 卒業式にて芸大作品展同窓会賞 賞状、副賞授与(13点) 3月23日
 8. 新卒業生・修了生に「同窓生名簿2015」贈呈 3月
 9. 新入生に同窓会入会案内と入会金納入のお願い発送 3月
 10. ホームページ運営委員会(ホームページ保守・管理・更新)
 11. 大学支援(本年度は大学からの申請なし)
- 他: 同窓会後援名義の申請数 5件
同窓生の作品展(個展、グループ展など)の掲載数 76件

・新規事業

- ▶ 「アートオークション 2021」実行委員会の開催
- ▶ 「同窓生名簿 2020」発行に向けた編集委員会の開催
- ▶ 真声会と象の会で「京都芸術大学の名称を守る会」を立上げ

第2号議案 2019(令和元)年度 会計決算・監査報告

2019年度は、140周年記念事業準備のため収支とも多めの予算を組みました。結果、収入では特別会計から300万円を繰入れ、終身会費収入が予算より225万円増えるなど270万円増でした。支出も記念事業準備のため900万円を見込みましたが、運営費、事業費とも支出減となり、収支決算で767万円程を次年度に繰越すことができました。特別会計は300万円を一般会計に繰出した以外に大きな動きは無く、名簿会計では、年度内に受け入れた「同窓生名簿2020」予約金が増収になりました。2019年度末の財産総額は2,674万円で、前年度より170万円増加しました。

財産目録 (2020年3月31日現在)		(単位: 円)
流動資産	26,740,529	(前年度 25,092,996)
普通預金	三菱 UFJ 銀行	271,034
普通預金	三井住友銀行	31,005
普通預金	みずほ銀行	141,014
定期貯金	ゆうちょ銀行	10,000,000
通常貯金	ゆうちょ銀行 アートオークション	47,334
当座預金	ゆうちょ銀行 郵便振替口座	6,465,216
通常貯金	ゆうちょ銀行 名簿編集委員会	430,611
普通預金	京都銀行	8,087,906
普通預金	京都中央信用金庫 事務局	1,187,146
現金		79,263
固定資産		なし
負債		なし
正味財産	26,740,529	(前年度 25,092,996)
一般会計		7,672,939
事業基金特別会計		18,740,000
名簿特別会計		327,590

決算報告書 (2019年(平成31年)4月1日～2020年(令和2年)3月31日)				(単位: 円)
一般会計				(収入の部)
項 目	予 算	決 算	備 考	
前年度繰越金	3,991,406	3,991,406	2018年度から繰越し	
繰 入 金	3,000,000	3,000,000	特別会計より	
年 会 費	200,000	686,200	399件(参考 前年度 193件)	
終 身 会 費	750,000	2,999,000	149件(参考 前年度 74件)	
入 会 金	2,100,000	2,070,000	@ 15,000 × 138件	
雑 収 入	150,000	181,878	会費過払、交流会費、広告代など	
利 息	94	100		
合 計	10,191,500	12,928,584		
(支出の部)				(単位: 円)
項 目	予 算	決 算	備 考	
運営費	2,530,000	1,787,523		
事 務 費	1,700,000	1,182,349	事務品、通信、人件、行動	
会 議 費	500,000	287,782	役員会、総務会、名称	
慶 弔 費	30,000	1,408	弔電	
ホームページ運営費	150,000	150,000	ホームページ管理運営	
郵便加入者負担金	100,000	122,484	振込手数料	
備 品 費	50,000	43,500	レーザープリンター	
事業費	6,481,000	3,468,122		
アートオークション	1,000,000	66,969		
同窓生名簿集	1,500,000	69,389		
会報「象」発行	1,900,000	2,119,058	9月、2月発行	
芸祭出店事業	350,000	0	休店	
同窓会展	350,000	364,566	作品搬入、搬出、設営など	
作品展 同窓会賞	300,000	268,140	賞金 賞状印刷	
新入生御祝	280,000	280,000	図書「京の美都の響」 特会へ	
大学支援	500,000	0	大学への事業支援	
五芸祭補助	300,000	300,000	本年度当番校	
修学支援	1,000	0	該当寄付金なし	
予備費	0	0		
繰出金	0	0	事業基金特別会計	
合 計	9,011,000	5,255,645		
次年度繰越金	1,180,500	7,672,939		

事業基金 特別会計				(収入の部)
項 目	予 算	決 算	備 考	
繰 越 金	21,460,000	21,460,000	2018年度から繰越し	
積 立 金	0	0	一般会計から繰入れ	
雑 収 入	280,000	280,000	一般会計から戻入	
利 息	10	0		
合 計	21,740,010	21,740,000		
(支出の部)				(単位: 円)
項 目	予 算	決 算	備 考	
取り崩し	3,000,000	3,000,000	一般会計へ繰入れ	
合 計	3,000,000	3,000,000		
次年度繰越金	18,740,010	18,740,000		

同窓生名簿特別会計				(2015～2020年の途中、2019年度分)
(収入の部)				(単位: 円)
項 目	予 算	決 算	備 考	
繰 越 金	△ 358,410	△ 358,410	2018年度から繰越し	
売 上 金	7,000	686,000	@ 3,500 × 1冊 予約 @ 3,500 × 195冊	
利 息	10	0		
合 計	△ 351,400	327,590	備 考	
(支出の部)				(単位: 円)
項 目	予 算	決 算	備 考	
送料など	1,000	0		
合 計	1,000	0		
次年度繰越金	△ 352,400	327,590		

2020年6月26日 上記のとおり報告いたします。

会 計 藤本 英子 ㊞

会 計 小畑 剛 ㊞

2020年7月3日、芸大第三会議室で監査を行い、同窓会会計帳簿、預金通帳、領収書類を精査し、この報告の通り相違ないことを確認いたしました。

会計監査 長谷川 直人 ㊞

会計監査 水野 収 ㊞

第3号議案 2020(令2)年度 事業計画(案)

2020年度は、当初計画の大きな3つの事業(総会、同窓生名簿2020発行、アートオークション2021開催)を実施する年でしたが、コロナ禍のため総会が中止、アートオークションが延期と決まり大きな事業支出は名簿発行と「京都芸大の名称を守る会」活動だけとなりました。その結果、特別会計からの繰入も無く事業費も減額でき、特別会計へ300万円繰出せる見込みです。一方、「名称を守る会」活動に50万円を予算化(音楽学部真声会と合わせて100万円)しました。他は経常事業です。

1. 新入生に入学記念品贈呈 未実施
- 「京都芸大130年の歩み 京の美 都の響」
2. 「同窓生名簿2020」刊行 8月
3. 「会報 象」71号、72号の発行と編集委員会の開催 9月、2月
4. 総務委員会の開催 未定
5. 卒業式にて芸大作品展同窓会賞 賞状、副賞授与(13点) 3月23日
5. 新卒業生・修了生に「同窓生名簿2020」贈呈 3月
6. 新入生に同窓会入会案内と入会金納入のお願い発送 3月
7. ホームページ運営委員会(ホームページ保守・管理・更新)
8. 大学支援(具体的には未定)
9. 同窓会報、同窓会誌「象」の合本
- 他： 同窓会後援名義の使用許可
- 同窓生の作品展(個展、グループ展など)の掲載

・継続事業

- ▶ 「アートオークション 2022」実行委員会の開催
- ▶ 「京都芸術大学の名称を守る会」の活動

第4号議案 2020(令2)年度 予 算 (案)

予算書(案) (2020年(令和2年)4月1日～2021年(令和3年)3月31日) (単位：円)		
一般会計		
(収入の部)		
項 目	予 算	備 考
前年度繰越金	7,672,939	前年度繰越金
繰 入 金	0	特別会計より
年 会 費	400,000	@ 1,000 × 延べ 400 人
終 身 会 費	1,500,000	平均 15,000 × 100 人
入 会 金	2,100,000	@ 15,000 × 140 人
雑 収 入	1,000	損目計上
利 息	61	
合 計	11,674,000	
(支出の部)		
項 目	予 算	備 考
運営費	3,070,000	
事 務 費	2,400,000	事務品、通信、人件、行動
会 議 費	300,000	役員会、総務委員会、各委員会
慶 弔 費	20,000	弔電 など
ホームページ運営費	150,000	HP 維持管理
郵便加入者負担金	150,000	振込手数料
備 品 費	50,000	シュレッダー など
事業費	4,638,000	
アートオークション運営	100,000	実行委員会経費
同窓生名簿編	500,000	同窓会負担金
会報「象」発行	2,000,000	9月、2月発行
芸芸出店事業	1,000	損目計上
同窓会展	350,000	未定
作品展 同窓会賞	300,000	賞金@ 20,000 × 13 賞、他
新入生御祝	280,000	図書「京の美都の響」
卒業生御祝	455,000	「同窓生名簿」
大学支援	500,000	大学への事業支援
会報会誌合本	150,000	前年度未執行
五芸祭補助	1,000	損目計上
修学支援	1,000	損目計上
特別事業費	500,000	
「京都芸術大学の名称を守る会」	500,000	真声会と合同で 100 万円
予備費	466,000	
繰出金	3,000,000	事業基金特別会計へ
合 計	11,674,000	
次年度繰越金	0	
事業基金 特別会計		
(収入の部)		
項 目	予 算	備 考
繰 越 金	18,740,000	前年度繰越金
積 立 金	3,000,000	一般会計から
返 済 金	800,000	名簿特別会計から
雑 収 入	280,000	一般会計から
利 息	10	
合 計	22,820,010	

(支出の部)		
項 目	予 算	備 考
取り崩し	0	一般会計へ戻入
貸 出 金	4,000,000	名簿特別会計へ
合 計	4,000,000	
次年度繰越金	18,820,010	
同窓生名簿特別会計 (2025 年の迄) の 2020 年度分		
(収入の部)		
項 目	予 算	備 考
繰 越 金	327,590	前年度繰越金
助 成 金	500,000	一般会計から
借 入 金	4,000,000	事業基金特別会計から
広 告 料	850,000	名簿広告掲載料
名簿頒布金	865,000	今年度頒布
雑入・利息	410	
合 計	6,543,000	
(支出の部)		
項 目	予 算	備 考
集委員会	4,620,000	名簿印刷費(税込)
編集委員会	78,471	会場、行動、補食
その他経費	600,000	撮影、表紙賞金、雑費
返済金	800,000	特別会計へ返済
合 計	6,098,471	
年度繰越金	444,529	

第5号議案 2020年 期 役員の選任について

2020年度は、5年毎の役員改選年です。事情による役員の途中交代はあっても任期は5年と会則で定めています。ついては、主要執行役員(正副会長、代表幹事、会計と監査)と学内、学外の幹事の合計79人の役員を改選します。主要執行役員候補は総務委員会で選び、他の幹事は各専攻研究室で候補者を選出し立候補者としました。多くの幹事は再立候補者(再任)ですが、今後5年間の同窓会活動にご協力をよろしくお願い申し上げます。

同窓会象の会2020年 期役員立候補者プロフィール(主要執行役員) <候補者から提出の資料を基に編集しました>

会長候補 望月重延(現：副会長)

1967年塗装卒、市立芸大名誉教授、新匠工芸会代表、京都工芸美術作家協会理事、工芸京都同人
・「オークション」を2022年に開催し成功させて京都芸大の移転を応援する。

副会長候補 阿部 緑(現：副会長)

1983年染織卒、大阪成蹊大芸術学部教授、市立芸大非常勤講師、日展会友、
・新会長の下、大学移転という大事業を控え校名問題など同窓会が果たす役割を考え、少しでも役立つことが出来ればと思います。

副会長候補 出井豊二(新任)

1973年デザイン卒、京都女子大教授を退任、京都女子大特任教授、同生活デザイン研究所副所長
・移転新校舎は自宅から6分の距離、地の利を生かし母校に恩返しできれば。

副会長候補 小山格平(元：代表幹事)

1976年デザイン卒、市立芸大デザイン科教員、京都精華大デザイン学部教員
・2014年に市立芸大を退職して同窓会幹事も辞しましたが「象の店」で活動してきました。今後も頑張ります。

代表幹事 野崎邦雄(現：代表幹事)

1969年西洋画卒、京都市染織試験場研究職を定年まで勤務、後に市児童館、日本染織意匠保護協会勤務、現在無職
・美大でお世話になったお礼奉公として務めます。恩は返しきれませんが。

代表幹事 安井友幸(現：代表幹事)

1991年漆工卒、市立芸大漆工研究室専任教員(教授)
・同窓会の発展と大学間のパイプ役として頑張ります。

会計幹事 藤本英子(現：会計幹事)

1982年デザイン卒、市立芸大デザイン研究室(環境デザイン)教授
・移転を控え同窓会の役割が重要視される中、大学とのスムーズな連携と橋渡し役として、会計を務めます。

会計幹事 小畑 剛(現：会計幹事)

1970年西洋画卒、京都府上級技術職員(文化、芸術、産業振興)の後、府観光連盟、京都友禅(協)で勤務

会計監査 水野 収(現：会計監査)

1979年日本画卒、元奈良芸術短期大学非常勤講師、現日展日本画会員
・同窓生の結びつきは、多くの社会貢献に繋がるネットワークだと思います。微力ながらお役に立てばと考えます。

会計監査 長谷川直人(現：会計監査)

1983年陶磁器卒、市立銅駝工芸高校、市立芸大専任講師を経て市立芸大(陶磁器研究室)教授

同窓会役員候補者名簿 (2020年期)

名誉会員	中西 進	潮江 宏三	建畠 哲	鷺田 清一 ●
相談役・顧問	上村 淳之 (相談役) ●	中井 貞次 (顧問)		
名誉会長	赤松 玉女 (理事長・学長)			
名誉副会長	上田 誠 (副理事長)	後藤 天平 (事務局長) ●	中原 浩大 (美術学部長)	栗本 夏樹 (研究科長)
	学 内	学 外		
会 長		望月 重延 (1967 (昭42) 塗) ●		
副会長		出井 豊二 (1973 (昭48) D) ●	小山 格平 (1976 (昭51) D) ●	阿部 緑 (1983 (昭58) 染)
代表幹事	安井 友幸 (漆工)	野崎 邦雄 (1969 (昭44) 洋)		
会 計	藤本 英子 (環境D)	小畑 剛 (1970 (昭45) 洋)		
監 査	長谷川直人 (陶磁器)	水野 収 (1979 (昭54) 日)		
幹 事	三橋 卓 (日本画) ●	三宅 五穂 (1951 (昭26) 彫)	中井 貞次 (1954 (昭29) 染)	上村 淳之 (1957 (昭32) 日)
	金田 勝一 (油画)	榊原 吉郎 (1957 (昭32) 洋)	矢田 精治 (1958 (昭33) 洋)	芦田 裕昭 (1959 (昭34) 日)
	田中 栄子 (版画)	伊藤 義明 (1959 (昭34) 図)	舞原 克典 (1961 (昭36) 洋)	二階堂 忠 (1962 (昭37) 洋)
	金氏 徹平 (彫刻)	川口 凱正 (1963 (昭38) 日)	佐野 賢 (1966 (昭41) 彫)	古川加津夫 (1970 (昭45) D)
	石橋 義正 (構想設計) ●	竹内 三雄 (1972 (昭47) 彫)	中野 順二 (1972 (昭47) 塗)	辻 喜代治 (1973 (昭48) 塗)
	滝口 洋子 (VD)	佐藤 敬二 (1974 (昭49) D)	岩間 香 (1977 (昭52) 日)	塚田 章 (1979 (昭54) D) ●
	高井 節子 (PD)	松尾 恵 (1980 (昭55) 染)	松本 陽子 (1982 (昭57) 版)	市川 博一 (1982 (昭57) 陶)
	日下部雅生 (染織)	東田 幸治 (1983 (昭58) 油)	児玉 靖枝 (1984 (昭59) 油)	村岡 幸信 (1985 (昭60) 日)
	田島 達也 (芸術学)	河原 有伽 (1986 (昭61) 版)	茶谷 文子 (1986 (昭61) PD)	谷本 天志 (1989 (平1) 油)
	飯田 真人 (教職) ●	安藤 吉準 (1989 (平1) 構)	辻野 宗一 (1990 (平2) 日)	新田 恭子 (1990 (平2) 染)
		碓 康治 (1991 (平3) 日)	安井 健二 (1992 (平4) VD)	渡邊 野子 (1993 (平5) 油)
		福岡 崇 (1994 (平6) PD)	吉岡 佐知 (1995 (平7) 日)	新道 牧人 (1997 (平9) 彫)
		福本 双紅 (1997 (平9) 陶)	正垣 雅子 (1998 (平10) 日)	新道 尚美 (1998 (平10) 陶)
		川越 里美 (1998 (平10) 陶)	北里美絵子 (1998 (平10) 染)	黒川 彰宣 (1999 (平11) 彫)
		人長 果月 (1999 (平11) 構)	徳永 杏子 (1999 (平11) VD)	小川久美子 (1999 (平11) 染)
		関林 宏祐 (2001 (平13) 日)	谷口 晋也 (2001 (平13) 陶)	吉岡 千尋 (2004 (平16) 油)
		谷澤紗和子 (2005 (平17) 油)	久門 剛史 (2005 (平17) 彫)	佐野 曉 (2005 (平17) 漆)
		古川きくみ (2007 (平19) 環D)	公庄 直樹 (2007 (平19) 漆)	中川 愛子 (2008 (平20) 環D)
		中村 潤 (2009 (平21) 彫)	澤村 春菜 (2010 (平22) 日) ●	萩原 佳奈 (2010 (平22) 漆)
		村井 都 (2013 (平25) 版)	濱野 志織 (2014 (平26) 芸)	多田 晶子 (2014 (平26) 染)
		田中 美有 (2016 (平28) PD) ●		

●印は新任

第6号議案 同窓会象の会 会則改正について

会則の改正は、総会に諮り決定する決まりです。(運営要項改正は役員会で議決) 今年の総会で提案予定だった改正案をお示しし、承認手続きを終えた上で施行します。(10月施行の予定)

<会則改正のポイント>

- 名誉副会長を4名とし、相談役を新たに設ける。(第9,11条,12条)
理由：実態に合わせて名誉副会長の定数を改め、相談役の新設は退任される会長などに引き続き同窓会へ協力・支援をお願いするため。

本会は、役員以外に名誉会長1名、**名誉副会長4名、相談役、顧問若干名**を置くことができる。＜名誉副会長2名の規定は削除 2020.09＞

- (3) 名誉副会長は、公立大学法人京都市立芸術大学副理事長及び**美術学部長、美術研究科長、事務局長**を充てる。＜理事を削除 2020.09＞

- (4) 相談役、顧問は会員から会長が推挙し、役員会で選任される。

- 総会を**全員総会 (略称：総会)**、役員会を**役員総会 (略称：役員会)**と呼称する。(第14条)
理由：毎年開催の役員会と、5年に一度の総会との違いを明確化するため

- 大規模災害や疫病などで総会が開催できない場合は、書面による議決権行使書により総会に代えることができる。(第15条に4項を加える)

- 大規模災害や疫病などで役員会が開催できない場合は、前条4項に準ずる。(第16条に4項を加える)

<運営要項改正案のポイント>

・会則運営要項

会則改正に伴う関連の字句(相談役)を追加

・事務局運営要項

1. 事務局職員は、**1～2名**で会長が任免し、代表幹事の指揮監督のもと会則運営要項を遵守して同窓会の業務を遂行する。
＜1名以内(0名も有り得る)を削除 2020.09＞

4. 総会を除く各種会議の出席者に次の行動費を支払う事ができる。

1. 会議1回につき一人2,000円(交通費も含む)とする。
ただし、代表幹事、会計、監査が、その職務で出席する場合は、1,000円(交通費も含)

＜ただし以降を削除 2020.09＞

5. 正副会長、代表幹事、会計、監査に次の行動費を支払う事ができる。

1. 会 長 年間10,000円以内
2. 副会長 年間10,000円以内(一人につき)
3. 代表幹事 年間10,000円以内(一人につき)
4. 会 計 年間5,000円以内(一人につき)
5. 監 査 年間5,000円以内(一人につき)

＜正副会長に役職行動費を新設、他の役員の役職行動費を50%削減、会議ごとの行動費支給に改正 2020.09＞